政策番号	25	政策分野	道と緑

基本方針	市民の視点に立った道路，橋りょう，公園等の社会資本の整備及び市民や行政が一体となった維持管理，補修を行うことにより，山紫水明の地の風土や千年の都としての歴史と調和した道と緑を創造する。

担当局	建設局	共管局	

政策の評価

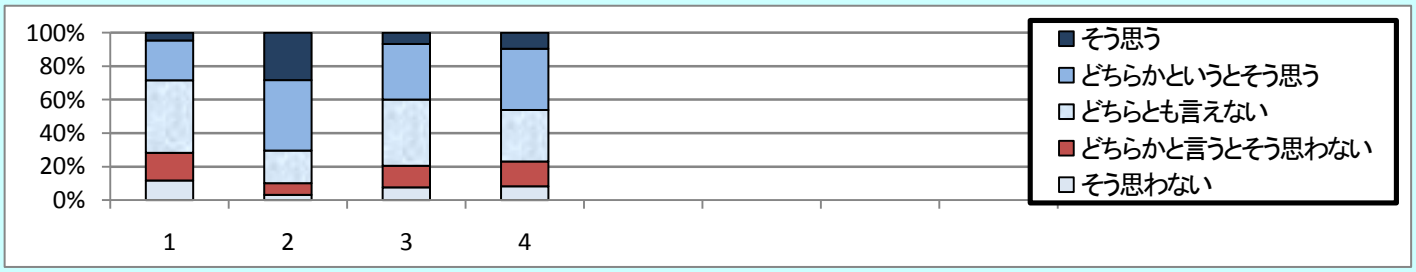
1　客観指標評価

	指標名	23年度評価値	32年度目標値	年度	23年度	24年度評価 前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	第1次緊急輸送路における都市計画道路の整備延長及び道路改良延長(km)	1.74	2.8	-	b	1.74	1.18	1.51	78.1%	b
2	緑視率10%以上の箇所数(箇所)	24	37	-	c	24	24	37	64.9%	c
3	道路，橋りょうへのアセットマネジメント導入率(%)	16	100	-	e	16	23.7	8.4ポイント増	91.7%	a
4	土地区画整理事業によるまちなみ整備率(%)	65.4	72.7	-	a	65.4	65.7	0.7ポイント増	42.9%	c
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価					c					b

※緑視率…人の目の高さにおける，目に見える範囲の緑の割合
※予防管理型管理手法(アセットマネジメント)…既存の社会資本の計画的な延命化を図る予防保全型の維持管理手法

2－1　市民生活実感評価

番号	設問	評価 年度	23年度	24年度
1	災害時も安全に移動できる道路網ができている。	-	c	c
2	京都は緑が豊かである。	-	a	a
3	市内の道路や橋が，市民の財産として，よい状態で管理されている。	-	c	c
4	道路や公園などがバランスよく整備され，魅力ある都市空間が増えている。	-	c	c
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価			b	b



２－２　政策の重要度（27政策における市民の重要度）

年度		23年度		24年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	16	14.0%	15	14.4%

３　総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
【客観指標】・災害時等の緊急輸送路の道路改良延長距離数は，厳しい財政状況の下，目標を下回り，昨年度に引き続きb評価となった。 ・緑視率10%以上の箇所数については，次回の現況値計測予定が平成27年度であり，昨年度の評価のままとしている。 ・道路等へのアセットマネジメントの導入率は，徒歩による点検専門職員の配置等により，点検が進んだ結果，a評価となった。 ・土地区画整理事業によるまちなみ整備率は，前年からは進捗したものの，目標値には届かず，c評価となった。 【市民の実感】・市民の実感については，全体として昨年と同様の評価となった。 ・「どちらとも言えない」とする回答が多数を占めるものの，京都の緑の豊かさについては高く評価されており，山紫水明といった京都の強みが反映された結果となった。 【総括】・客観指標は一定進捗するとともに，市民の実感も肯定的に評価されており，総じて取組に見合った実感を得ている。 ・こうしたことを総合的に勘案し，この政策の目的は，かなり達成されていると評価する。		23年度	C
		年度	-

今後の方向性の検討

＜この政策を構成する施策とその総合評価＞

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
			23	24	
2501	幹線道路ネットワークの充実	-	B	B	257
2502	健やかな生活が実感できる緑化の推進	-	B	A	259
2503	都市活動を支える社会資本の維持管理	-	C	B	261
2504	まちのにぎわいと潤いを創出する市街地環境の整備	-	C	C	263

＜今後の方向性＞

・安心・安全な幹線道路ネットワークの形成に向け，橋りょうや道路に面する斜面，排水機場等について，災害に強いまちづくりに向けた防災・減災対策を充実するほか，緊急時の輸送ルートの確保や安全性の向上，北部山間地域と都心地域等とのアクセス強化などに取り組む。

・きめ細やかな緑のネットワークの形成に向け，緑視環境の充実や，公園・緑地の計画的整備など健やかな生活が実感できる緑化を推進する。

・社会資本を良好に維持するため，各年度の予算の平準化や長寿命化を目指した最適維持管理手法（アセットマネジメント）の導入により，計画的かつ効率的に都市基盤施設を維持補修・更新する。

・魅力ある都市空間の形成に向け，土地区画整理事業などの面的整備手法により，市街地の公共施設と宅地を一体的，総合的に整備する。また，現在施工中の土地区画整理事業で完了まで未だ相当量の事業がある地区については，早期完了を目的とした事業のスリム化を目指し，事業計画の見直しを検討する。

政策名	25	道と緑

指標名	第１次緊急輸送路における都市計画道路の整備延長及び道路改良延長（km）

担当部室	道路建設部 事業推進室	連絡先	２２２－３５７７ ２１３－３６５９

１　指標の説明

他の府県からの輸送ルートとなる高規格道路，直轄国道等と京都府庁，京都市役所を結ぶ路線の道路改良延長

２　指標の意味

真に必要な路線の整備を計画的に進めることを示す指標

３　算出方法・出典等

算出方法：（執行事業費÷総事業費）×計画総延長
出典：事業担当課調べ

４　数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	1.74	2.8	ほぼ完全整備（99.9%）を目指す。

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	1.74	1.18	0.56km減	1.51	当該年度の目標整備延長（（予算額÷総事業費）×計画総延長）の達成を目指す。	78.1%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値					

備考	

５　評価基準

単年度目標に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上80%未満
c：40%以上60%未満
d：20%以上40%未満
e：20%未満

６　基準説明

道路改良延長を総事業費に係る執行事業費の割合に計画総延長を乗じることで算出し，当該年度の目標整備延長と比較して達成度が80%以上の場合をa，以下20%刻みで基準を設定した。

７　評価結果

	23	24
-	b	b

指標名	緑視率１０％以上の箇所数（箇所）

担当部室	水と緑環境部	連絡先	２２２－３５８９

１　指標の説明

市街地に設けた計測地点（３７箇所）における緑視率（人の目の高さにおける目に見える範囲の緑の割合）が１０％以上の箇所数

２　指標の意味

きめ細かな緑のネットワークの形成をめざして，市民の満足度に寄与する緑の確保状況を示す指標

３　算出方法・出典等

算出方法：高さ1.5mに据えたカメラを用いて水平に撮影した写真の視野にある緑の割合を計測(単位は%)
出典：事業担当課調べ

４　数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	24	37	すべての計測箇所について，緑視率10%以上を維持する。 （平成22年度計測時における10%以上の箇所は24箇所）

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	24	24	増減なし	－		-

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値		37	27年度	64.9%	次回計測は平成27年度を予定しており，次回計測時には37箇所とする。

備考	

５　評価基準

最新数値の中長期目標値に対する達成度が
a：　100%
b：　75%以上～100%未満
c：　50%以上～ 75%未満
d：　25%以上～ 50%未満
e：　25%未満

６　基準説明

当該指標については，目標とする37箇所すべてにおいて緑視率10%以上を達成できた場合を100%とし，以下25%刻みで基準を設定した。

７　評価結果

	23	24
-	c	c

政策名	25	道と緑

指標名	道路，橋りょうへのアセットマネジメント導入率（%）

担当部室	土木管理部	連絡先	２２２－３５６８

１　指標の説明

施設の中長期的な劣化予測を行うとともに，予算的制約の下でいつどのような対策を，どこで行うのが最適であるか体系的に意思決定する手法を，道路舗装・橋りょうに導入した率

２　指標の意味

道路や橋りょうといった市民生活に不可欠な社会資本の計画的・効果的な保全状況を示す指標

３　算出方法・出典等

算出方法：（点検済道路延長÷管理道路延長）×１／２＋（点検済橋りょう数÷管理橋りょう数）×１／２
出典：事業担当課調べ

４　数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	16	100	完全導入を目指す。

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	16	23.7	7.7ポイント増	8.4ポイント増	残年数内に完全実施するために必要な単年度の進ちょく割合	91.7%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値					

備考	

５　評価基準

単年度目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

６　基準説明

当該指標については，道路・橋りょうの状況により，実施優先度などを考慮し，80%以上をａ，以下20%刻みで基準を設定した。

７　評価結果

	23	24
-	e	a

指標名	土地区画整理事業によるまちなみ整備率（%）

担当部室	都市整備部	連絡先	２１３－３５３７

１　指標の説明

施行中の土地区画整理事業地区において，事業が進み良好なまちなみが形成された区域の面積を，事業費の執行状況により示したもの

２　指標の意味

「魅力ある都市空間の形成」に向けた土地区画整理事業の進み具合を示す指標

３　算出方法・出典等

算出方法：施行中地区で，各年度の事業費執行額を施行済面積に換算して事業当初から積み上げた累計値を全体地区面積で割った率　　出典：事業担当課調べ

４　数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	65.4	72.7	施行中土地区画整理事業628ha（８地区）のうち，298ha（５地区）の施行完了及び残り３地区について一定の事業進ちょくを目指す。

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	65.4	65.7	0.3ポイント増	0.7ポイント増	(10年後の目標数値－前回数値)／前回数値計測時点での残年数	42.9%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値					

備考	

５　評価基準

単年度の目標値に対する達成度が，
a：　80%以上
b：　60%以上～ 80%未満
c：　40%以上～ 60%未満
d：　20%以上～ 40%未満
e：　20%未満

６　基準説明

まちなみ整備率を指標として，各年度での最新数値と単年度目標値の前回数値からの伸び分を率化し，これが80%以上となる場合をaとし，以下20%刻みで基準を設定した。
※達成度＝（最新数値-前回数値）/（目標値-前回数値）×100

７　評価結果

	23	24
-	a	c